

木田市長の

どいんと
コミュニケーション



「浜の真砂は・・・」

Vol.127

「浜の真砂は尽きるとも、世に盗人の種は尽きまじ」これは石川五右衛門の辞世と言われています。いつの世も悪事を働く者は後をたちませぬ。

日本の国は安全で治安が良いと私は信じていますが、昨今の振り込め詐欺の状況を見るとはたしてそうかと考えざるを得ません。振り込め詐欺で騙されるのは大抵お年寄りです。老後の生活の為に用意した資金をこっそり持っていかれるのですから、騙された人の嘆きと悔しさは容易に想像出来ます。金持ちの家を狙って犯行に及んだ昔の方がまだ人間らしいと言えるかもしれません。もっとも昔はお年寄りがお金を持っているわけがなく、ひとり住んでいるわけでもないから、盗人も手が出なかったでしょう

が・・・

更に言うなら、騙されやすい人が増えてきたとも言えるかもしれません。先日の一ユースには少し驚かされました。ひとつは、あなたの預金に二セ札が混ざっているおそれがあると電話がかかってきた1件です。驚いた本人は犯人の指示に従って預金を下ろしてきて、二セ札かどうかチェックしてもらおう為に数百万円のお金を渡してしまつたそうです。自分の預金に対応する現金が、いつも銀行には用意されていると思わせた犯人の知恵と技術には脱帽です。

ふたつには、振り込め詐欺の電話の中で一度も自分の名前を名乗らなかつたというものです。相手が名乗らないのに、本人は早合点してお金を払ってしまいました。一体誰

に支払つたのかということですね。どの事件も後から冷静に考えたら、とても騙されるようなものではなかつたと言えるものではないでしょうか。しかし、現実にはこのような事件が数多く発生しています。

では、どうすればこの種の犯行が無くなるのかということとです。お年寄りをはじめ他人に対して思いやりを持つという教育ではちよつと間に合いません。私がいつも思うのは、犯人を捕まえても下つ端ばかりで肝心の主犯まで芽づる式にとりわけにはいかなので、その下つ端に対する罰をうんときつくしてはどうかということとです。気軽に犯行の手伝いをして、もし捕まつても知らない人に頼まれたなどという言い訳はごめんです。

もうひとつの手段は、家電話を出るだけ無くし、簡単に使える携帯をお年寄りに持つてもらふことです。かかってくる電話は身近かな人ばかりですからこれは効果抜群でしょう。



鳥羽のおいしい食で 熊本を元気にしたい

観光課 ☎25 11157

9月7日、熊本地震の被災地支援をしようと、三重県調理技能士会の有志25人（鳥羽料理研究・三重三料会から9人）が熊本県益城町で炊き出しを行いました。

炊き出しは、約200人が避難生活を送る益城町総合体育館で行われ、伊勢エビが入った「伊勢エビうどん」や松阪牛が入った「肉じゃが」の三重県の食材を使った料理を振舞いました。

会場に着くと、みなさんとても喜んでくれて「何が食べられますか？」と来てくれました。また、炊き出しを食べたかたからは「すごくおいしい。おかわりはできる？」「元氣が出る」などの嬉しい言葉をいただきました。

炊き出しと合わせて、三重県調理技能士会から義援金50万円が贈られました。

